

文型と語釈

矢澤 真人

キーワード：ヲ格，自他認定，国語辞典

要 旨

多くの国語辞典では、対象ヲ格が出現する可能性のある動詞を他動詞と認定する。ヲ格の出現の度合いは動詞によりかなり差があるため、国語辞典の自他認定には実態調査が欠かせないが、数多くの動詞を処理するためには、より簡略な手法が必要になる。動詞の直前にヲ格が現れる割合は、この目安にすることができる。

1. はじめに —文型から引く国語辞典をめざして—

国語辞典の障碍の一つに、意味を調べたい単語に意味区分（①や②のような下位分類）がなされていた場合、その単語の意味をよく知らないと、どれに該当するのか判断できないという問題がある。短い語釈から微妙な意味の違いを察知するには、その後についての十分な知識か、かなりの洞察力が要求されるのである。

語釈で意味区分が選択しにくいならば、外形的な特徴から導けばよいと、誰しも考えるだろう。動詞ならば、活用形や格のあり方、前後の単語との共起情報などの文型が手がかりになる。実際、多くの国語辞典で「連体形で」とか「主に『～している』や『～した』の形で」といった注釈が付け加えられている。自他の表示も文型情報の一つであるし、格体制を示す国語辞典もある。

ただし、これは、意味区分ごとに文型と語釈が対応しなくてはならない。①にも②にも「主に連体形で」という文型が示されていたなら、その文型は①か②かを選択には役立たない。もし、その意味区分で指定した文型以外の用法の方が多いと、かえって文型を示すことで、本来そこに含まれるものが排除されてしまうおそれもある。その文型が、一つの意味区分のみに見られるのか複数の意味区分でも見られるのか、また、一つの意味区分全体に適用されるのか部分的に適用されるのかについて、実態を踏まえた記述が必要なのである。

文型の提示は、解釈への手がかりだけでなく、作文に役立つ。ただし、この場合も、使用実態に支えられていなければ役に立たない。多くの国語辞典で、「整備す

る」という動詞を「自他サ変」と認定しているが、実際は「環境を整備する」や「環境が整備される」といった他動詞用法が圧倒的多数を占める^{*1}。「環境が整備する」という自動詞の文型は正誤はともかく、積極的に作文で導く必要はないだろう。

この論では、動詞の自他認定を軸に、文型とコーパス上の傾向について見ていく。その上で、「直前ヲ格の割合」という目安を示すとともに、特異な傾向を示す「思う」を例に、文型と語釈の関連づけを試みる。

2. 国語辞典の自他認定

2.1. 自他認定の問題点

動詞の自他の認定は、日本語研究における主要なテーマであり、さまざまな研究がなされてきた。国語辞典では、これらの研究成果をもとに、個々の動詞に対し、自他の認定を下していくのであるが、認定はそう簡単ではなく、かなり判断に揺れが見られることが指摘されている^{*2}。

研究レベルでは、典型的な動詞の代表的な用例で全体の体系を示してすませることもできるし、必要に応じて詳細な分類を施したり、例外的な用法に対する丁寧な注釈を加えることもできるが、国語辞典では、典型と典型の間の中間的な用例も含めて、数多くの動詞に対して、比較的簡略な形で示さねばならない。

1) 『明鏡』自他認定数

	自	他	自他	計
五段	1345	1592	38	2975
上一	77	74	10	161
下一	493	902	53	1448
カ変	1	0	0	1
サ変	3972	4927	801	9700
計	5888	7495	902	14285

*1 YAHOO!JAPAN の検索において、「環境を整備する」1,400,000 件、「環境が整備される」32,000 件、「環境が整備する」22 件、「環境を整備させる」298 件である。「環境を整備させる」はほとんどが使役化の例。

*2 楊高郎(2009a,2009b)参照。

1) は、『明鏡国語辞典携帯版』（以下『明鏡』）の自他の認定状況を示したものである。一つの動詞の意味区分毎に別の自他の認定がなされることもあるので、単純に動詞の項目数とは言えないが、14000以上の項目に自他の認定が施されている。これらに、十分な用例調査を行った上で自他の認定が下されるのが理想的であるが、ヲ格は文脈によって省略されることも多く、その動詞が他動詞相当なのか自動詞相当なのかを判定するのは、かなり大変な作業になる。例えば、「話すことがある」は、話すべき内容があるという意味ならば、内の関係の修飾となり、「話す」は対格型の構文で用いられていると見なせる。一方、話す機会があるという意味ならば、外の関係となり、「話す」はヲ格相当のものを伴っていないことになる。コーパスを用いて、用例を500例抽出するのは簡単だが、その自他を正確に判定するのはかなりの手間になる。このため、直感的判定ですませてしまうことも少なくないようで、現状を必ずしも反映していない自他認定もまま見られる。

例えば、「充実する」や「交流する」は、多くの国語辞典で自動詞と認定されているが、BCCWJでは、「充実する」の終止連体形190例のうち、ヲ格と共起する他動詞用法のものが129例、非対格のガ格と共起する自動詞用法のものが31例と、他動詞用法の方が多数を占めている。「交流する」の他動詞用法は多くはないが、それでも、終止連体形95例中、「考え」「情報」などをヲ格とする用例が6例見られる。これらは2)・3)のように教育にかかわる文書にも用いられているのである。

2) 学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、生徒の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実すること。（『中学校学習指導要領』）

3) 例えば、「書くこと」では、書くことの課題を決める指導事項や、書いたものを交流する指導事項などを新設し、学習過程全体が分かるように内容を構成している。（『小学校学習指導要領解説国語編』）

2.2. 自他認定の基準

さまざまな自他の認定基準のどれを優先させるかによっても、認定の揺れが生じる。例えば、「過ぎる／過ごす」や「明ける／明かす」は、形態的な点から見れば、「過ぎる」と「明ける」が自動詞、「過ごす」と「明かす」が他動詞となるが、「働きかけ性」は、「過ごす」や「明かす」もかなり希薄である。多くの国語辞典では、形態的な対立を重視して他動詞とするが、『現代新国語辞典』（以下『現新』）のように、自動詞と認定する国語辞典もある。

- 4) a. 一日が過ぎる。
b. 一日を過ごす。
- 5) a. 夜が明ける。
b. 夜を明かす。
- 6) すご-す【過ごす】[一]〈自五〉①時間を費やす。転じて、くらす。「一日を一・す」②適当な程度を越す。「酒を一・す」[文]〈四〉。 (『現新』)
- 7) あか-す【明かす】[一]〈自五〉夜を(眠らないで)過ごす。(類)(スル)徹夜。[文]〈四〉。「まんじりともせず夜を一・す」 (『現新』)

「囲む」や「包む」といった動詞は、しばしば「働きかけ性」の点で問題にされてきたが、他動詞と見なす根拠の一つが受動文が作れるという点である。この基準からすれば、「柿が粉を吹く」や「鉄板がさびを生じる」などは、10)c.や11)c.のように受動文が作れない点で、他動詞とは言いにくい。しかし、『現代新国語辞典』も含めて、多くの国語辞典で他動詞と見なされている。

- 8) a. 木々がその家を囲んでいる。
b. その家は木々に囲まれている。
- 9) a. 赤い包み紙がプレゼントを包んでいる。
b. プレゼントが赤い紙に包まれている。
- 10) a. 柿が粉を吹く。
b. 柿に粉が吹く。
c. *粉が吹かれる。
- 11) a. 鉄板がさびを生じる。
b. 鉄板にさびが生じる。
c. *さびが生じられる。
- 12) ふ・く【吹く】[一][自五]③[かび・粉などが]表面に現れ出る。「粉が一・た柿」[二][他五]④[かび・粉などを]表面に表し出す。(『現新』)
- 13) しょう・じる【生じる】[自他上一]①カビ・コケや虫などが発生する。「パンにカビが一」「岩に苔が一」「ため池にボウフラが一」「パンがカビを一」[語法]自動詞用法「パンにカビが一」の～ニ(=発生源)が、他動詞用法「パンがカビを一」の～ガ(=主語)になる。②ある(通常ならざる)現象が発生する。また、化学変化である物質が発生する。「壁に亀裂が一」「地面に断層が一」「包丁にさびが一」「摩擦によって熱が一」「壁が亀裂を一」③体にある(通

常ならざる) ものできる。「腹部に湿疹 が／を―」「木々の枝々に新芽が―」
 ④新しく物事が発生する。また、新しく物事を発生させる。「世代間に格差 が
 ／を―」「生活にゆとり が／を―」「心に疑惑 が／を―」「心にすき が／を―」
 「無から有 を／が―」 =生ずる (『明鏡』)

2.3. 「しゃべる」の自他認定

ほとんどの国語辞典が、「しゃべる」という動詞を他動詞と認定している。確かに、人二格と共起した 15)a.は、「言う」を述部とする 16)a.と同様に、内容を示すヲ格の欠損感が強い。しかし、人ト格と共起した 15)b.は、ヲ格の欠損感はほとんどなく、自動詞と認定される 16)b.の「雑談する」とほぼ同等である。

14) しゃべ・る【▼喋る】〔他五〕ものを言う。話す。特に、無駄なことを口数多くべらべらと話す。「ここで見たことは―・ってはいかん」「だんまりを決め込んで一言も―・らない」「秘密をうっかり―・ってしまう」「よけいなことまでべらべらと―」「くだらないことをべちゃくちゃ―」「よく―やつだ」〔表現〕やや俗語的な言い方で、敬語化が難しく、目上の人には使いにくい。

(『明鏡』)

- 15)a. 太郎が花子にしゃべっている (何を?)
- b. 太郎が花子としゃべっている
- 16)a. 太郎が花子に言っている (何を?)
- b. 太郎が花子と雑談している

「言う」「話す」「しゃべる」「雑談する」など、音声による伝達を表す動詞のうち、「言う」や「伝える」のような内容伝達を表す動詞は、人二格および内容ヲ格を要求し、これを欠くと欠損感が生じる。この一方で、これらの動詞は、人ト格とはあまり共起せず、もし共起したとしても、伝達する相手ではなく、伝達元が複数であることを表す共同者の解釈になりやすい(「二人が別の人を相手に」の意)。

これに対し、「雑談する」「会話する」のような伝達形態を表す動詞は、人二格とは共起せず、人ト格は相手の解釈(「その人を相手に」の意)になりやすい。さらに、「言う」「伝える」は「～合う」をつけることができるが、「雑談する」は「～合う」をつけると不自然になるという対立もある。

「話す」や「語る」は、「しゃべる」と同様、人ト格を伴った 18)d.は、17)d.の「言う」のようなヲ格の欠損感はないが、18)e.のように「～合う」をつけること

ができる点で、「しゃべる」とは異なる。

- 17)a. 太郎が文句を言う。
b. 太郎が花子に文句を言う。
c. 太郎が花子と文句を言う。 (共同者；二人が別の人に)
d. 太郎が花子と言っている。 (?何を)
e. 太郎が花子と言いつ合っている。 (?何を)
- 18)a. 太郎が事情を話す。
b. 太郎が花子に理想を話す。
c. 太郎が花子と事情を話す。 (共同者；二人が別の人に)
d. 太郎が花子と話している。 (相手；花子を相手に)
e. 太郎が花子と話合っている。
- 19)a. 太郎が秘密をしゃべる。
b. 太郎が花子に秘密をしゃべる。
c. 太郎が花子と秘密をしゃべる。 (共同者；二人が別の人に)
d. 太郎が花子としゃべっている。 (相手；花子を相手に)
e. *太郎が花子としゃべり合っている。
- 20)a. *太郎が恐怖体験を雑談する。
b. *太郎が花子に雑談する。
c. *太郎が花子と恐怖体験を雑談する。
d. 太郎が花子と雑談している。 (相手；花子を相手に)
e. *太郎が花子と雑談合っている。

発話伝達を表す動詞に関しては、内容が注目されると、内容ヲ格をとる他動詞の用法になりやすく、形態や様態が注目されると、非能格の自動詞の用法になりやすいこと、人ニ格や人ト格、「～合う」との共起は、かなりこれと関係することがうかがわれる。

「言う」や「伝える」などを典型的な他動詞とし、「雑談する」や「会話する」などを典型的な自動詞として両極に置くならば、「話す」や「語る」は、中間から他動詞寄りの位置にが置かれ、「しゃべる」はほぼ中間に置かれるといった連続した分布が想定できる。「話す」の 18)d.や「しゃべる」の 19)d.のような用法を自動詞用法と見なすと、これらも自他両用動詞と見なさなくてはならない。

3. 動詞の格が直前に出現する割合

3.1. ヲ格の出現状況

そもそも日本語において、他動詞は、実際にどの程度、ヲ格を明示的に伴うのか。

『新潮文庫の百冊』の日本人作家の作品を対象に、終止形終止法の文で対象ヲ格の出現状況を調査すると、「読む」では明示的に対象ヲ格を伴うものが95%にも達するのに対し、「思う」では、直接、対象ヲ格を伴う例（21）・22）や、従属節が形容詞文や名詞文なのにヲ格が現れた例（23）～26）など、明示的に対象ヲ格を伴ったものは4%に満たない。有対他動詞「助ける」「建てる」「汚す」や無対他動詞「救う」「読む」「耕す」なども、半数以上の文で、ヲ格が明示的に現れるのに対し、「後悔する」や「譲歩する」「質問する」などは、ヲ格が明示的に現れる割合はかなり低い。このような他動詞における対象ヲ格の共起の度合いの差は、単純にヲ格の省略という観点では、説明できない。他動詞と認定されたものにも、ヲ格と共起しにくいものがあるのである。

- 21) それから身近い種々の人の事を思う。（森鷗外）
- 22) そして自分の尊敬する人々のことを思う。（武者小路実篤）
- 23) 私はH君の幻想到満ちた絵を、ここに示せないことを残念に思う。（五木寛之）
- 24) 同じ売場に隣り合せた中年女の舶来がどうのこうのという話を軽蔑しながらも、その堂々とした風格を羨ましく思う。（高野悦子）
- 25) そして俺たちのことを『工場』だと思ふ。（村上春樹）
- 26) 予はその怪しげなものを妖魔じゃと思ふ。（芥川龍之介）

自動詞は、ヲ格が現れることがないはずであるが、先の「充実する」や「交流する」のようにヲ格を伴うものも見られるし、「黙る」にも27)～30)のように、ヲ格を伴う例が見受けられる*3。

*3 以下のような副詞的な「何を」「あとを」を伴うものを除く。この「黙る」は「話さない」の代表表現として用いられていると解釈するのがよいかもしれない。

三原は言って、あとを黙った。（松本清張）

聖さま、なにを黙っていなさるんです？（北杜夫）

- 27) とにかく私は何とか挨拶すべきところを黙っていたのですから、私はこの怠慢の罪をあなたの前に謝したいと思います。(夏目漱石)
- 28) もうあのことを黙ってはいられなかった。(新田次郎)
- 29) 柳さんは、どうして襲われたことを黙ってたのかしら？(赤川次郎)
- 30) 君はあのことを黙ったまま耐えしのぶつもりじゃないだろう？
(大江健三郎)

これと同様のことが、いわゆる対称動詞と相手ト格との共起にも見られる。「結婚する」「喧嘩する」「戦争する」「面接する」がト格とどの程度共起しているか、毎日新聞 1999 年から 2007 年までの 9 年間分のデータで見ると、「けんかする」は約 40 %、「結婚する」は約 35 %、「面接する」は約 24 %、「戦争する」は約 15 % とかなりの差が見られる。

他動詞にしても対称動詞にしても、ヲ格や相手ト格をとる可能性があるという観点から一律に扱うのは、こうした用法のゆらぎを覆い隠すことになる。

3.2. ある形態が動詞の直前に出現する割合

3.1.では、コーパスを元にした全量調査やサンプリング調査をしたが、2.1.で触れたように、この方法はかなりの負担がかかる。もう少し簡略な方法で多くの語を測定して、その中で特徴的な数値を示したものについて、全量調査やサンプリング調査による精査に進む方が实际的であろう。

ここでは、その目安の一つとして、動詞の終止連体形の直前に、特定の形態(格)が現れる割合を用いることを提唱する。ヲ格ならば、あるコーパスに現れる「をVする」の数を「Vする」の数で割った割合である。これは、調査が簡略であるだけでなく、動詞の直前という位置に高頻度で現れる特徴的な形態が意味区分と結びつけられれば、意味選択の有力な基準になるという点も利点となる。

31) 『新潮文庫の百冊』による「読む」の各活用系別の直前ヲ格数

読む	ま	も	み	ん	む	め	計
全体	53	0	51	315	162	18	609
直前ヲ格	9	8	19	155	76	5	272
割合%	17.0	80.0	37.3	49.2	46.9	27.8	44.7

終止連体形を用いるのは、31)のように、ヲ格との共起は、活用によってかなり

ゆれが見られ、比較的、終止連体形が全体の数値に近いからである。終止連体形は複合動詞後項になることがあり、「一切る」や「戻す」など、複合語の後項で用いられることの多い動詞はその用法の数を差し引く必要がある。

また、日本語の動詞には、比較的定まった語順で連用成分が配列されるものがある。単純にヲ格が直前に現れないからといって、ヲ格が出現していないわけではないが、逆に、直前ヲ格と直前ニ格の比率を見ることで、「入れる」や「戻す」は「～を～に」の語順になりやすく、「建てる」や「届ける」は「～に～を」の語順になりやすいということが浮かび上がってくる。

場所の移動や時間の経過を表す動詞は、経路ヲ格や時間ヲ格をとることがあり、これも一般的な他動詞とは区別する必要がある。ただし、移動や経過を表す動詞でも、直前ヲ格の比率をBCCWJで調べると、「過ぎる」は50%^{*4}、「通る」は41%、「渡る」は39%、「歩く」は21%と差がある。「しゃべる」のような発話伝達の動詞と同様に、「過ぎる」や「通る」は経過作用に、「歩く」は移動形態に寄っていると見なすこともできるよう。

原則として、自動詞の直前にヲ格が現れるのは、同属目的語^{*5}や「何を」のような特殊なヲ格か、「本を出かける人に渡した」のような直後の従属節の動詞ではなく主節の動詞にかかる場合に限られるはずであり、かなり低い頻度になることが予想される。実際に、代表的な自動詞はいずれも0.1%を切る数値になっている。

4. 「思う」の文型と語釈

4.1. 「思う」の問題

発話伝達動詞では、新聞だけが「話す」の直前ヲ格が「しゃべる」より低くなっているのは、直前にト格が現れる割合が70%と高い値を示すからである。これは、新聞の文体的特徴と見なしてよからう。

「思う」は、いずれのデータでも直前ヲ格の数値が格段に低く、直前ト格の割合が高い。BCCWJで「思う」の直前の形態の比率を求めると32)のようになる。

*4 「高過ぎる」「取り過ぎる」のような複合語の用法を除く。

*5 同属目的語でも、「読書する」「改名する」は直前ヲ格の共起率は低く、「開店する」や「歌う」は高く、「踊る」や「改名する」はその中間的な値になるというように、自他の幅が見て取れる。

32) 「思う」の直前形態(BCCWJ)

総数	と	に	は	う	を	て	も	く	が	その他
%	74.7	5.9	5.0	4.4	1.8	1.6	1.2	0.9	0.8	3.8

「～に」は形容動詞連用形, 「～く」は形容詞連用形, 「～て」は「って」「なんて」, 「～う」は「こう」「そう」「どう」などであり, これらはト格と同様の引用節をなす。「その他」の中には, 「思った通り」「思ったほど」「思うに」「思うように」など, 「思う」が文頭に現れるものがある。これらは「私が思ったとおり」のように主格は現れるが, 「～を思ったほど」のような用法はない。固定連語的ではあるが, 他動詞的ではなく, 思索結果を導く自動詞的な用法である。

こうに見ると, 「思う」は, 文型から次の3つに大きく分けられるのである。

- 33)a. 直前に引用節が出やすいもの
- b. 直前にヲ格が出やすいもの
- c. 直前に引用節もヲ格も出にくいもの

4.2. 国語辞典の「思う」の記述

文型といった観点から既存の国語辞典の「思う」の用例を見てみよう。

文型に注目して「思う」の意味区分を施しているものに、『岩波国語辞典第五版』(以下『岩波』)がある。「心の働きの対象とする」という全体的な語釈を挙げたあと, 大きく(ア)で引用節をとらないもの, (イ)で引用節をとるものと文型を用いた区分がなされているが, (ア)の用例に, 「思うように」のようにまずヲ格を伴わないものが混在している。

- 34) ア) 心に浮かべる。心が引かれ, または心がそちらに働く。「昔を一」「人を一」(恋する意にも)「春はものを一わせる」「一ようには, はかどらない」

『明鏡』の意味区分でも文型が注目されるが, 徹底はしていない。「①物事を知覚・認識する。」「②物事について, 何らかの感覚・感情をもつ。感じる。」「③物事について, ある判断(特に, 直感的な判断)を下す。また, 判断を意見として示すのに使う。考える。」などでは, 引用節をとるものだけを挙げるが,

- 35) ④物事について, 疑問・推測・回顧・希望・決意などの気持ちをもつ。「ど

うしようかなと一・っているところだ」「必ず勝つと一」「仙台は一・ったより寒かった」「今にして一（＝考え直す）と僕の考えは甘かった」「亡き母を一と悲しくなる」「ゆっくり話したいと一・ってやってきました」「先生になりたいと一・っている（＝考えている）」「物事は一ようには行かないものだ」「強く生きようと一」

では、「仙台は思ったより」や「物事は思うようには」のような異質な文型が入り込んでいる。もちろん、的確な語釈のもとにいくつもの文型が混在するのは仕方がないのだが、「…などの気持ちを持つ」という語釈は「思う」という精神作用の細分に過ぎず、①の「知覚」や②の「感情」、③の「判断」以外の引用節をくくっているに過ぎないように思われる。⑤や⑥では、「子を一親の愛は」とか「彼女を一気持ちは」のように、引用節をとらないでヲ格を伴う用法を挙げている。

4.3. 文型を示した「思う」の意味区分の試み

ト格をどの程度区分するのかについては、ここで詳しく述べないが、『明鏡国語辞典』の①の用法は、36)a.～36)c.のように、「思ったら」「思った瞬間」など過去形をとるのが普通であること、ほぼト格の引用節に限られ、形容動詞や形容詞の連用形では不自然になること、ト格の引用節の主体の語もヲ格にしにくい、といった文型的な特徴がある。語釈の上でも、「外が明るい」「外が光った」といった外的な事態をその時点で知覚したことを表す点で、内的な感覚や判断を表す②や③と区分しやすい。②も感情・感覚形容詞を引用節にとること、原因ヲ格をとれること、文全体を「私には A が B だ」のように言い換えられること、形容詞連用形ではガ格は不自然になることといった特徴がある。語釈の上では、①は知覚的、②は感覚的という差がある一方で、①も②も実感を表す点で共通し、抽象的な認識を表す③と区別できる。①は自動詞的だが、②・③は原因をガ格でもヲ格でも表せる点で、自他動詞的な位置づけになろう。

- 36)a. 外が明るいと 思ったら／*思えば／*思うと、月明かりであった。
 b. 外が 明るいと／?明るく 思ったら、月明かりであった。
 c. 外が／?を 明るいと思ったら、月明かりであった。
 37)a. 私には この部屋は寒い／親切がありがたい／不祥事が遺憾だ。
 b. 私には ?彼女が正直だ／?先生になりたい。

『明鏡』の④は雑多なものが混在している。「～だろうと思う」「～たいと思う」「～ないかと思う」など、モダリティ表現を引用節にとる用法を別にたて、①知覚、②感覚、③判断、④主観表現の客観化といった意味区分をなすことも考えられる。

一方、直前にヲ格が出やすいものには、「～を思う」と「～を思わせる」の二つの文型がある。BCCWJ では、「～を思う」541 例中、「名詞+のことを」の形をとるものが12% (65例) 程度見られるが、「～を思わせる」377例中、「名詞+のことを」の形をとるものは見当たらない。前者は、「母のことを思う」のような思慕や「當時を思う」のような懐古、「ものを思う」のような思案など、さまざまな思索行為を表すが、後者は「母を思わせる」のような彷彿を表す点で、文型からも語釈からも大きく二つに分けることができるのである。

5. おわりに

この論では、国語辞典の自他認定の問題を示し、直前ヲ格を目安とすることを述べた。そして、直前ヲ格の割合で特異な数値を示した「思う」を例に文型と語釈とを結びつけた意味区分の例を示した。もちろん、文型と語釈は常に結びつくものではないし、「思う」のパターンがほかの動詞に無条件で当てはめられるものではない。しかし、利用者の立場にたった文型と語釈の結びつきを考えるのに、本論で示したようなわかりやすい手順をもとに考えることは必要であろう。詳細だがコストの高い研究ベースの手法のほかに、課題をとりあえず解決する手法について考える、一つの試みである。

参考文献

- 矢澤真人(2007a)「国語辞書の障碍について」荻野綱男編『コーパスを利用した国語辞書編集法の研究』(特定領域研究「日本語コーパス」平成18年度研究成果報告書)
- 矢澤真人(2007b)「ユビキタス辞書の時代」『日本語学』26
- 矢澤真人(2008)「国語辞典のランチについて」荻野綱男(編)『コーパスを利用した国語辞書編集法の研究』(特定領域研究「日本語コーパス」平成19年度研究成果報告書)
- 矢澤真人(2009a)「理想の国語辞典」『辞書を知る』(新「ことば」シリーズ22)国立国語研究所
- 矢澤真人(2009b)「国語辞典のランチ分けと意味記述」荻野綱男(編)『コーパスを利用した国語辞書編集法の研究』(特定領域研究「日本語コーパス」

平成 20 年度研究成果報告書)

楊高郎(2009a)「国語辞典における自他両用の漢語動詞について」荻野綱男(編)『コーパスを利用した国語辞典編集法の研究』(特定領域研究「日本語コーパス」平成 20 年度研究成果報告書)

楊高郎(2009b)「国語辞典における自他認定について—自他両用の二字漢語動詞を中心に—」特定領域研究「日本語コーパス」総括班(編)『特定領域研究「日本語コーパス」平成 21 年度全体会議予稿集』

毎日新聞 CD-ROM 1999 年～2005 年版

BCCWJ 公開データ 2008 年度版

新潮文庫の百冊

『岩波国語辞典 第六版』岩波書店

『学研現代新国語辞典』学習研究社

『明鏡国語辞典 携帯版』大修館書店

本稿は、科学研究費・特定領域研究「日本語コーパス」の研究成果の一部である。

A 有対他動詞

WEB

	有対他動詞	全体	直前「を」	割合	直前その他	割合	他
1	助ける。	23,100,000	18,600,000	80.5%		0.0%	
2	建てる。	23,900,000	17,300,000	72.4%	981,000	4.1%	に
3	汚す。	4,170,000	2,960,000	71.0%		0.0%	
4	見つける。	65,900,000	46,400,000	70.4%		0.0%	
5	見る。	1,960,000,000	1,370,000,000	69.9%	14,600,000	0.7%	と
6	伸ばす。	30,100,000	21,000,000	69.8%		0.0%	
7	開ける。	51,400,000	35,300,000	68.7%		0.0%	
8	変える。	122,000,000	78,200,000	64.1%	24,600,000	20.2%	に
9	延ばす。	3,550,000	2,250,000	63.4%		0.0%	
10	抜く。	33,700,000	21,000,000	62.3%		0.0%	
11	破る。	11,000,000	6,850,000	62.3%		0.0%	
12	届ける。	17,800,000	9,940,000	55.8%	4,430,000	24.9%	に
13	つぶす。	5,810,000	3,210,000	55.2%		0.0%	
14	切る。	63,500,000	34900000	55.0%		0.0%	
15	のばす。	3,260,000	1,760,000	54.0%		0.0%	
16	植える。	7,920,000	4,170,000	52.7%	1,680,000	21.2%	に
17	閉ざす。	1,110,000	550,000	49.5%		0.0%	
18	溶かす。	5,270,000	2,420,000	45.9%	820,000	15.6%	に
19	くっつける。	2,670,000	1,090,000	40.8%	533,000	20.0%	に
20	割る。	10,300,000	4050000	39.3%		0.0%	
21	乗せる。	17,500,000	6,710,000	38.3%	8,460,000	48.3%	に
22	入れる	248,000,000	93,500,000	37.7%	118,000,000	47.6%	に
23	聞く。	219,000,000	75,600,000	34.5%	47,600,000	21.7%	と
24	移す。	14,600,000	4,250,000	29.1%	8,860,000	60.7%	に
25	戻す。	51,600,000	8,190,000	15.9%	38,000,000	73.6%	に

BCCWJ

	有対他動詞	全体	直前「を」	割合	直前その他	割合	他
1	助ける。	462	366	79.2%		0.0%	
2	建てる。	324	249	76.9%	15	4.6%	に
3	汚す。	100	75	75.0%		0.0%	
4	見つける。	787	635	80.7%		0.0%	
5	見る。	13,899	6,910	49.7%	610	4.4%	と
6	伸ばす。	418	309	73.9%		0.0%	
7	開ける。	924	621	67.2%		0.0%	
8	変える。	1,825	1,151	63.1%	26	1.4%	に
9	延ばす。	125	50	40.0%		0.0%	
10	抜く。	904	300	33.2%		0.0%	
11	破る。	320	184	57.5%		0.0%	
12	届ける。	247	57	23.1%	52	21.1%	に
13	つぶす。	167	58	34.7%		0.0%	

14	切る。	2,396	729	30.4%		0.0%	
15	のぼす。	118	83	70.3%		0.0%	
16	植える。	143	68	47.6%	37	25.9%	に
17	閉ざす。	43	37	86.0%		0.0%	
18	溶かす。	72	33	45.8%	10	13.9%	に
19	くつつける。	45	22	48.9%	8	17.8%	に
20	割る。	218	80	36.7%		0.0%	
21	乗せる。	186	81	43.5%	89	47.8%	に
22	入れる	4,948	1,428	28.9%	1,394	28.2%	に
23	開く。	4,241	1,500	35.4%	557	13.1%	と
24	移す。	557	126	22.6%	226	40.6%	に
25	戻す。	1,086	103	9.5%	372	34.3%	に

毎日新聞

	有対他動詞	全体	直前「を」	割合	直前その他	割合	他
1	助ける。	1,648	1,387	84.2%		0.0%	
2	建てる。	658	494	75.1%	51	7.8%	に
3	汚す。	209	165	78.9%		0.0%	
4	見つける。	1,541	1,261	81.8%		0.0%	
5	見る。	27,310	12,642	46.3%	2,108	7.7%	と
6	伸ばす。	1,396	943	67.6%		0.0%	
7	開ける。	2,301	1,463	63.6%		0.0%	
8	変える。	7,283	4,423	60.7%	1,332	18.3%	に
9	延ばす。	475	182	38.3%		0.0%	
10	抜く。	3,354	1,209	36.0%		0.0%	
11	破る。	3,366	2,471	73.4%		0.0%	
12	届ける。	1,429	431	30.2%	509	35.6%	に
13	つぶす。	769	382	49.7%		0.0%	
14	切る。	13,167	2603	19.8%		0.0%	
15	のぼす。	58	35	60.3%		0.0%	
16	植える。	621	368	59.3%	94	15.1%	に
17	閉ざす。	226	184	81.4%		0.0%	
18	溶かす。	188	102	54.3%	14	7.4%	に
19	くつつける。	40	19	47.5%	7	17.5%	に
20	割る。	962	559	58.1%		0.0%	
21	乗せる。	1,038	232	22.4%	760	73.2%	に
22	入れる	15,239	4,098	26.9%	2,735	17.9%	に
23	開く。	16,039	5,206	32.5%		0.0%	と
24	移す。	2,689	630	23.4%	1,387	51.6%	に
25	戻す。	5,238	225	4.3%	1,845	35.2%	に

B 無対他動詞

WEB

	無対他動詞	全体	直前「を」	割合	直前その他	割合	他
1	救う。	36,800,000	31,400,000	85.3%		0.0%	
2	読む。	683,000,000	493,000,000	72.2%		0.0%	
3	描く。	109,000,000	64,200,000	58.9%	9,410,000	8.6%	
4	耕す。	1,720,000	1,010,000	58.7%		0.0%	
5	張る。	23,300,000	13,600,000	58.4%	1,950,000	8.4%	
6	運ぶ。	32,400,000	18,800,000	58.0%	4,430,000	13.7%	に
7	作る。	458,000,000	258,000,000	56.3%	18,900,000	4.1%	
8	吸う。	17,000,000	9,490,000	55.8%		0.0%	
9	眺める。	30,200,000	16,100,000	53.3%		0.0%	
10	ひらく。	7,670,000	4,080,000	53.2%		0.0%	
11	望む。	55,200,000	28,800,000	52.2%	5,960,000	10.8%	に
12	包む。	12,100,000	6,250,000	51.7%	927,000	7.7%	に
13	考える。	389,000,000	193,000,000	49.6%	57,600,000	14.8%	と
14	吐く。	16,500,000	8,130,000	49.3%		0.0%	
15	間違える。	12,200,000	4,650,000	38.1%		0.0%	
16	塗る。	20,300,000	7,490,000	36.9%	4,540,000	22.4%	に
17	飲む。	116,000,000	39,100,000	33.7%		0.0%	
18	食う。	29,700,000	8,150,000	27.4%		0.0%	
19	食べる。	246,000,000	66,400,000	27.0%		0.0%	
20	尋ねる。	12,600,000	3,390,000	26.9%	2,770,000	22.0%	に
22	さわる。	3,690,000	789,000	21.4%	976,000	26.4%	に
23	臨む。	13,500,000	1,890,000	14.0%	7,710,000	57.1%	に
25	思う。	867,000,000	22,600,000	2.6%	663,000,000	76.5%	と
26	しゃべる	18,800,000	1,690,000	9.0%	1,160,000	6.2%	
27	話す	98,600,000	16,900,000	17.1%	26,000,000	26.4%	と

BCCWJ

	無対他動詞	全体	直前「を」	割合	直前その他	割合	他
1	救う。	476	398	83.6%		0.0%	
2	読む。	2,394	1,127	47.1%		0.0%	
3	描く。	1,127	647	57.4%		0.0%	
4	耕す。	87	40	46.0%		0.0%	
5	張る。	945	196	20.7%		0.0%	
6	運ぶ。	679	299	44.0%	132	19.4%	に
7	作る。	3,234	2,245	69.4%		0.0%	
8	吸う。	397	222	55.9%		0.0%	
9	眺める。	464	239	51.5%		0.0%	
10	ひらく。	138	83	60.1%		0.0%	
11	望む。	896	392	43.8%	58	6.5%	に
12	包む。	249	134	53.8%	24	9.6%	に
13	考える。	10,023	3,184	31.8%	2,470	24.6%	と

14	吐く。	335	188	56.1%		0.0%	
15	間違える。	103	40	38.8%		0.0%	
16	塗る。	244	123	50.4%	60	24.6%	に
17	飲む。	1,866	751	40.2%		0.0%	
18	食う。	506	180	35.6%		0.0%	
19	食べる。	3,027	848	28.0%		0.0%	
20	尋ねる。	534	91	17.0%	91	17.0%	に
22	触る。	196	39	19.9%		0.0%	に
23	臨む。	219	12	5.5%	129	58.9%	に
25	思う。	30,421	541	1.8%	22,724	74.7%	と
26	しゃべる	447	55	12.3%	25	5.6%	と
27	話す	4,275	638	14.9%	643	15.0%	と

新聞

	無対他動詞	全体	直前「を」	割合	直前その他	割合	他
1	救う。	2,647	1,410	53.3%		0.0%	
2	読む。	10,532	4,686	44.5%		0.0%	
3	描く。	7,605	4,332	57.0%		0.0%	
4	耕す。	136	95	69.9%		0.0%	
5	張る。	5,548	1,389	25.0%		0.0%	
6	運ぶ。	2,927	1,574	53.8%	584	20.0%	に
7	作る。	17,147	10,909	63.6%		0.0%	
8	吸う。	805	516	64.1%		0.0%	
9	眺める。	786	406	51.7%		0.0%	
10	ひらく。	238	104	43.7%		0.0%	
11	望む。	5,280	3,245	61.5%	300	5.7%	に
12	包む。	607	356	58.6%	45	7.4%	に
13	考える。	28,226	13,229	46.9%	5,240	18.6%	と
14	吐く。	434	269	62.0%		0.0%	
15	間違える。	311	104	33.4%		0.0%	
16	塗る。	416	205	49.3%	84	20.2%	に
17	飲む。	2,797	1,146	41.0%		0.0%	
18	食う。	643	266	41.4%		0.0%	
19	食べる。	6,563	2,099	32.0%		0.0%	
20	尋ねる。	1,627	567	34.8%	213	13.1%	に
22	触る	718	330	46.0%	203	28.3%	に
23	臨む。	5,038	22	0.4%	3,289	65.3%	に
25	思う。	59,628	1,769	3.0%	47,216	79.2%	と
26	しゃべる	626	71	11.3%	39	6.2%	と
27	話す	30,746	1,407	4.6%	21,527	70.0%	と

C 自動詞

WEB

	自動詞	全体	直前「を」	割合	直前その他	割合	他
※	黙っている	2,860,000	43,000	1.5%		0.0%	
1	割れる。	7,510,000	127,000	1.7%		0.0%	
3	乗る。	84,700,000	772,000	0.9%	58,100,000	68.6%	に
2	入る。	299,000,000	2,710,000	0.9%	186,000,000	62.2%	に
3	悩む。	55,400,000	476,000	0.9%	18,200,000	32.9%	に
4	見える。	296,000,000	2,120,000	0.7%	108,000,000	36.5%	に
5	溶ける。	9,780,000	15,900	0.2%		0.0%	
6	黙る。	2,490,000	2,430	0.1%		0.0%	
7	座る。	27,600,000	25,900	0.1%	14,500,000	52.5%	に
8	助かる。	15,900,000	7,910	0.0%		0.0%	
9	困る。	82,100,000	16,100	0.0%	10,900,000	13.3%	に

BCCWJ

	自動詞	全体	直前「を」	割合	直前その他	割合	他
※	黙っている	249	2	0.8%		0.0%	
1	割れる。	110	0	0.0%		0.0%	
3	乗る。	1,415	2	0.1%	811	57.3%	に
2	入る。	6,216	51	0.8%	4,094	65.9%	に
3	悩む。	456	4	0.9%	139	30.5%	に
4	見える。	5,893	7	0.1%	2,486	42.2%	に
5	溶ける。	117	0	0.0%		0.0%	
6	黙る。	53	0	0.0%		0.0%	
7	座る。	541	0	0.0%	301	55.6%	に
8	助かる。	236	1	0.4%		0.0%	
9	困る。	1,706	0	0.0%	133	7.8%	に

新聞

	自動詞	全体	直前「を」	割合	直前その他	割合	他
※	黙っている	168	0	0.0%		0.0%	
1	割れる。	620	1	0.2%		0.0%	
3	乗る。	5,391	3	0.1%	2,751	51.0%	に
2	入る。	19,856	67	0.3%	13,651	68.8%	に
3	悩む。	3,234	10	0.3%	1,070	33.1%	に
4	見える。	12,662	24	0.2%	5,386	42.5%	に
5	溶ける。	156	0	0.0%		0.0%	
6	黙る。	55	0	0.0%		0.0%	
7	座る。	1,277	0	0.0%	668	52.3%	に
8	助かる。	578	1	0.2%		0.0%	
9	困る。	3,472	0	0.0%	305	8.8%	に